

日光に折り紙自販機

県北・日光版

SHIMOTSUKI SHIMOTSUKI SHIMOTSUKI SHIMOTSUKI

宇都宮のIT関連企業



日光市内に設置された折り紙作品自動販売機と、事業に乗り出した和気社長

鶴、奴など5種セット

市内障害者施設が製作

【日光】外国人観光客にお土産として購入してもらおうと、中鉢石町の国道119号沿いに、折り紙作品の自動販売機がお目見えした。IT関連企業「アクセス」(宇都宮市双葉1丁目)がこのほど設置した。同社の和気悟志社長は「手先の器用な日本人の文化が外国人に珍しく映るのではないかと、という着想で始めた」と説明している。(伊藤一之)

折り紙作品販売は「つるのはねプロジェクト」と銘打った。パッケージに入ったQRコードをスマートフォンなどで読み取れば、このプロジェクトのサイトにつながるため、会員制交流サイト(SNS)のフェイスブックなどで、購入者に折り紙や日光の良さを発信

自販機で売られている折り紙作品とパッケージ



してもらおうことも狙う。購入者はQRコードを読み取ると自動的に登録され、その後、アクセスから

地域やイベントの情報を送られる仕組みにした。折り紙作品は、日光の伝統文化や自然をイメージする柄や色の折り紙を使い、「鶴」「奴」「袴」「兜」の5作品入りパッケージを200円で販売している。製作は障害者就労を支援する目的で、足尾の社会福祉法人すかいに依頼している。

足利銀行を傘下に置くめぐみぶきフィナンシャルグループのビジネスプランコンテスト「めぐみビジネスアワード」にアクセスがエントリーした経緯から、このプロジェクトには足銀戸祭支店の仲介で印刷会社など3社が賛同している。和気社長は「(今後)お年寄り手芸品などの自販機販売も考えている。自販機で隠れている価値を売っていきたい」と話している。